



小倉南区の小高い丘の上にある企救丘小学校です。
5年生3クラス 116名の大人数、学校の希望で校庭の樹木
観察をメインに行いました。

体育館での開会式ではスタッフの自己紹介に続き、
もりもり体操をしました。春に木から芽が出て、葉っぱが
茂り、台風で大風に揺らされ、秋になって葉が落ち、冬にな
ってお休みをするという樹の一年を子供たちは楽しく表現
してくれました。

次は、校庭にでて樹木観察の開始です。
人数が多いため12グループに分け、それぞれのスタート地
点から出発。樹種も多く、時間の制限もあったため、
時間配分樹種の選択（10種前後）もスタッフが決めるとい
うスタイルで行いました。森林の様々な働き—
酸素を出してくれる、根っこで土をつかんでくれる、枯れ葉
や枯れ枝、土中の微生物で豊かな土を作り保水力のある土
地にする—などの話も観察の中に取り入れました。

桜の木の洞を見て、なぜ枯れないのか、ヒイラギはどんな
風に昔の生活に取り入れられていたのか、カイヅカイブキ
の樹脂を見つけて匂いを嗅いでみたり、とても好奇心旺盛
な子供たちでした。

ホルトノキは地味な樹でありあまり普通は関心と呼ばないの
ですが、赤くなった葉っぱや、オリーブの実に似た実も沢山
なっていたため、名前の由来で盛り上がりました。

アッという間の一時間で、時間が短いと子供たちから文
句を言われましたが、ある程度フリースタイルでゆっくりと
子供達と樹に向き合う事ができてよかったと思います。

最後の校庭での振り返りでは、森林と樹木の働きを再確
認して、自然と共生すること、人間同士も互いに認め合う事
で、より良い状況と未来を作ることができるという話があり
ました。

スタッフ（赤松、大森、中村、宮本、久保田、常藤、高田
諸石、藤原、手寫、佐伯、野見山）